



東光寺小学校学校運営協議会通信

No.27

令和2年3月2日

東光寺小学校学校運営協議会発行

会長 奥住 方彦



新しい時代に向けて

PTA会長 速水 亨

2020年になって、早くも3月になりました。今年の干支「庚子（かのえ・ね）」は、歴史学者の村上瑞祥氏曰く、新たな芽吹きと繁栄の始まりであり、新しいことを始めると上手くいく年なのだそうです。また、「十二支読本」によると、本来、子（ねずみ）年は文字の如く子供を表す干支であり、新しい運気のサイクルの始まりなのだそうです。子供が主役の新しい時代が始まり、繁栄へと繋がっていくのかと、何だか期待に満ちた気分になります。

昨年は開校40周年を迎え、50周年へ向けた次の10年がスタートしました。開校より歴代の方々が積み上げてきた素晴らしい歴史を、今度は現役の我々が担っていく番なのだと、子供に関わる大人として新たな始まりを感じました。

さて、現代社会は、金融では現金から電子マネー、情報配信では新聞やテレビからネットのように、私たちの想像以上に目まぐるしい移り変わりを見せています。子供たちを取り巻く教育環境についても、答えを与えられる教育から、お互いを尊重し、話し合って答えを出し、そして実行していくという教育へと移り変わってきています。私が学校運営協議会やPTAに関わる中で、社会・教育・価値観・手法・仕組み等の変化のスピードは、自分が理解し、受け入れるまでの時間よりも早く進んでいるように感じます。こんな激動の中だからこそ、自分の考え方・感情・価値観をいま一度客観的に見つめ直し、古くからの観念に囚われず、自身をアップデートしていく柔軟さをもち合わせる必要があるのではないのでしょうか。その先に「そうなのか！」と、新しく踏み出せる一歩があるのだと思います。これから私自身もアップデートしながら、子供たちの育成のために協力させていただきたいと思っています。

本校の学校運営協議会は、子供たちのためにと集まってくださった地域の方々ばかりです。集まもっているスキルも見識も千差万別ですが、子供たちを思う真剣さは熱く、それぞれの立場を生かして委員同士連携しながら学校経営に協力しています。中華料理の「八宝菜」の8が意味するところは「8種類」ではなく「多い」だそうですが、多彩な具材が織りなす八宝菜さながら、新しい時代を切り開く多様性と調和を併せもつ学校運営協議会の委員の皆様と、これからも活動を共にできることを光栄に思います。

令和元年度、1年間ありがとうございました。引き続きよろしく願いいたします。

各部からの活動報告

【学習部】

1月24日の学校公開を参観しました。当日はお天気がよく、体育の授業が終わった子供たちが昇降口に元気よく走りながら戻ってくる様子から見させていただきました。明るく挨拶をしてくれる子供たちに、とてもうれしい気持ちになりました。廊下に貼り出されている書き初めはどれも個性的で、自分や我が子が書き初めをしていた頃を思い、懐かしかったです。



さまざまな授業を見させていただき、特に印象的だったのは算数の習熟度別クラスと、5年生の英語の授業でした。中でも少人数クラスはとても丁寧な授業で、個人の学力が大いに伸ばせたり、弱いところをカバーしたりできる、とてもよい環境だと強く感じました。英語は、先生が子供と一緒に楽しんで授業されているように感じ、それに対して子供たちが活発に「我こそは！」と挙手をして答える様子に、見ているこちらまで手を挙げて参加したくなりました。

子供たちが楽しく積極的に授業を受ける姿は、見ていてとても気持ちがよく、これからの子供たちに希望を抱ける光景で、いつまでも見ていたくなりました。

(正井 和美)

【 環境部 】

東光寺小学校の校庭が芝生化されて10年以上経過しました。今年度は学校、保護者、地域、校庭開放の関係者の皆さま522名が芝生の維持管理に関わってください、緑の芝生が頑張っ成成長しています。12月から3月までは芝生の維持管理はお休みで、4月から維持管理を再開いたします。今年度1年間、ありがとうございました。そして、来年度も、ご協力をお願いいたします。

(久松 秀樹)

【 安全・安心部 】 ～「おいからですか？」 立川駅北口バス停前での出来事 ～

赤ちゃんを抱いている若いお母さんが杖をついた高齢の女性から何かを尋ねられ、答えられずに戸惑っている様子を見て、私は思わず「どうしたのですか？」と声を掛けました。「このバス停から国立駅南口へ行けるのか尋ねられましたが、目の前の時刻表を見ると本数が少なく、当分の間、バスが来ない。」と言うのです。

そこで、私が「南口のバス停からなら本数が多いですよ。ご案内しましょうか？」と伝えたところ、「おいからですか？」と聞かれました。「お金なんていりませんよ。」という私に「どうして親切にしてくれるのですか？」と、真剣な顔つきで重ねて聞いてきます。私は、これから日野に帰ること、駅の改札の先にバス停があること、地域で民生委員の活動をしているので何かお役に立てればと声を掛けたことを伝えてみましたが、胡散臭いと思われたのか、別のバス停に並んでいる人に同じように尋ね始めました。しかし、思うように答えてくれる方がいないのか、そのうち何かを思い出したという様子で私の方へやって来て、「けやき台団地に行って、国立行きに乗ります。私には十分時間があるし、“シルバーパス”があるので…」と、丁寧にお断りの気持ちを伝えられました。

バス停には段差があるので、その方が乗り込むところを見届けて、私は駅に向かってエスカレーターに乗りました。

えっ！もしかして私、詐欺集団の一味に思われた？ ショック!!

何とも言えぬ思いが込み上げてきました。余計なお世話と思われたのか、あるいは以前、お金を要求されたことがあったのか、「騙されまい」との思いが強かったのかもかもしれません。近年の特殊詐欺への注意喚起が浸透してきた結果であるなら仕方ないとも思います。しかし、難しい時代になってきました。最初に尋ねられていた若いお母さんが、ホッとした表情で会釈してくださったのが、せめてもの救いでした。

9月、小学6年生に実施された『全国学習状況調査』には、「人が困っている時に、進んで助けますか」「難しいことでも失敗を恐れなくて挑戦していますか」という質問があり、「当てはまらない」「どちらかといえば当てはまらない」と答えた児童が、それぞれ12%、20%という集計結果が出ています。

「あなたはどうですか？」と、自分自身に問うてみました。う～ん、それでも「はい！」 迷うことがあっても、動き出している私でありたいです。

(三好 啓子)



桜から学ぶ

3学期も終わりに近づき、春の訪れを感じる頃になってきました。今年の冬は記録的な暖冬となり、スキー場でも雪が降らず、東京でも初氷が2月に入ってからとなりました。春になると気になるのが、桜の開花です。

ところで、桜の開花には何が影響しているのでしょうか。桜の木は秋に葉を落とし、芽が動かない「休眠」に入ります。「休眠」から目覚めるためには、ある一定温度以下、ある一定期間以上、冬の冷たい空気にさらされる必要があります。このように冬の寒さに耐えた桜が、春になってきれいな花を咲かせる訳です。植物の世界では当たり前ですが、これは人にも当てはまるのではないのでしょうか。しっかりと勉強をして努力を続けていく、その結果としてきれいな大輪の花を咲かせることができる。「努力に勝る天才なし」「努力し続けるのも才能のうち」「天才とは努力する凡才のことである」と、努力に関する言葉はいろいろありますが、東光寺小の子どもたちも、厳しい環境の中でも一生懸命努力し、大きく成長してほしいと思っています。

(奥住 方彦)

